

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

2023年10月31日



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

神栄株式会社

証券コード:3004

1.会社概要	<u>P2</u>
2.特長・強み	<u>P8</u>
3.中期経営計画	<u>P17</u>
4.サステナビリティの取組み	<u>P23</u>
5.2024年3月期第2四半期決算	<u>P28</u>
6.2024年3月期業績予想	<u>P37</u>
Appendix	<u>P40</u>

会社概要



— 暮らしを支える価値創造 —

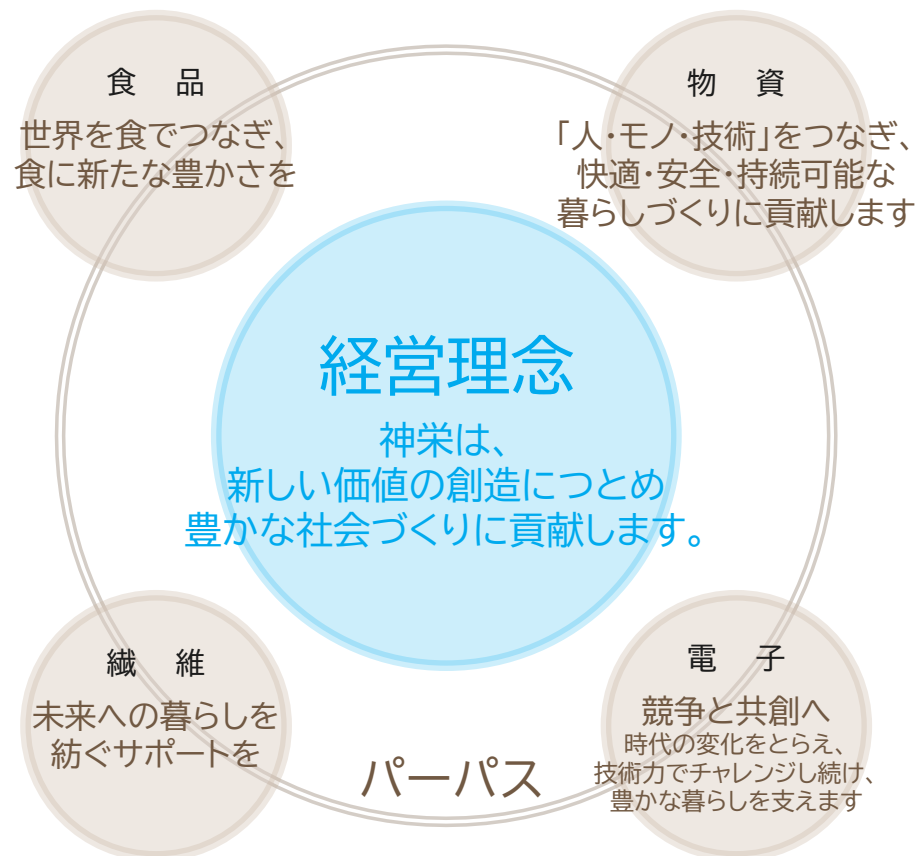
1887年、神戸の地で誕生した神栄株式会社は、
以来、神戸とともに成長し、時代の試練にも
果敢に立ち向かいながら社業を発展させてきました。

「神栄」という社名は、
「神戸の繁栄への願い」と「発祥の地である 神戸栄町」に
ちなんで命名されたもの。
私たちはこの名を大切にしながら、
世界の人々の豊かな暮らしを支える事業を展開してまいります。

会社概要

会社名	神栄株式会社(英文社名:SHINYEI KAISHA)
本社	神戸市中央区
設立	1887年5月
上場市場	東京 スタンダード市場上場(3004)
事業内容	国内および海外における各種商品の販売および輸出入、 電子部品・関連製品の製造・販売および輸出
セグメント	食品関連・物資関連・繊維関連・電子関連 (4セグメント)
従業員数(連結)	479名(2023年3月31日現在)

経営理念とパーパス



拠点

◆ グローバルニッチトップ
国内外でトップシェアの製品やサービスを提供



SHINYEI 日本-Japan

神栄株式会社

本社(神戸市)
東京支店
福岡支店
神栄グループR&Dセンター(神戸市)
沖縄営業所
名古屋営業所

グループ会社(日本)

神栄テクノロジー株式会社

本社(神戸市)
つくば事業所
福岡工場

神栄リビングインダストリー株式会社

本社(神戸市)

神栄ホームクリエイト株式会社

本社(大阪府東大阪市)
東京営業所
福岡営業所

神栄キャパシタ株式会社

本社(神戸市)
長野工場

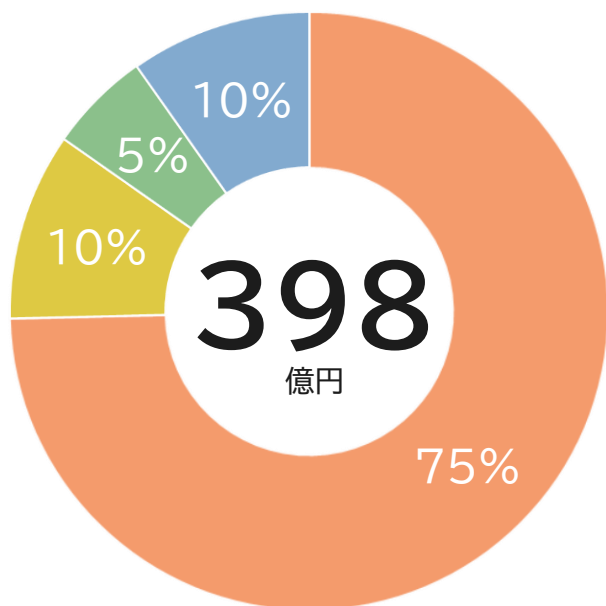
グループ会社(米州)

Shinyei Corp. of America

本社(ニューヨーク)
メキシコ事務所

事業構成(2023年3月期)

2023年3月期
売上高



食品関連

297 億円



冷凍食品



農産物
(落花生・ナッツ類など)

物資関連

40 億円



防災関連、建設機械、金属加工品、生活資材、ベアリング、試験機、建築金物・資材

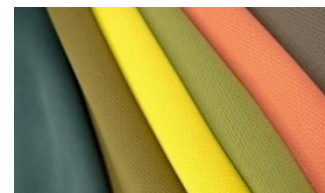


繊維関連

21 億円



アパレル



テキスタイル

電子関連

38 億円



センサ



コンデンサ



計測機器



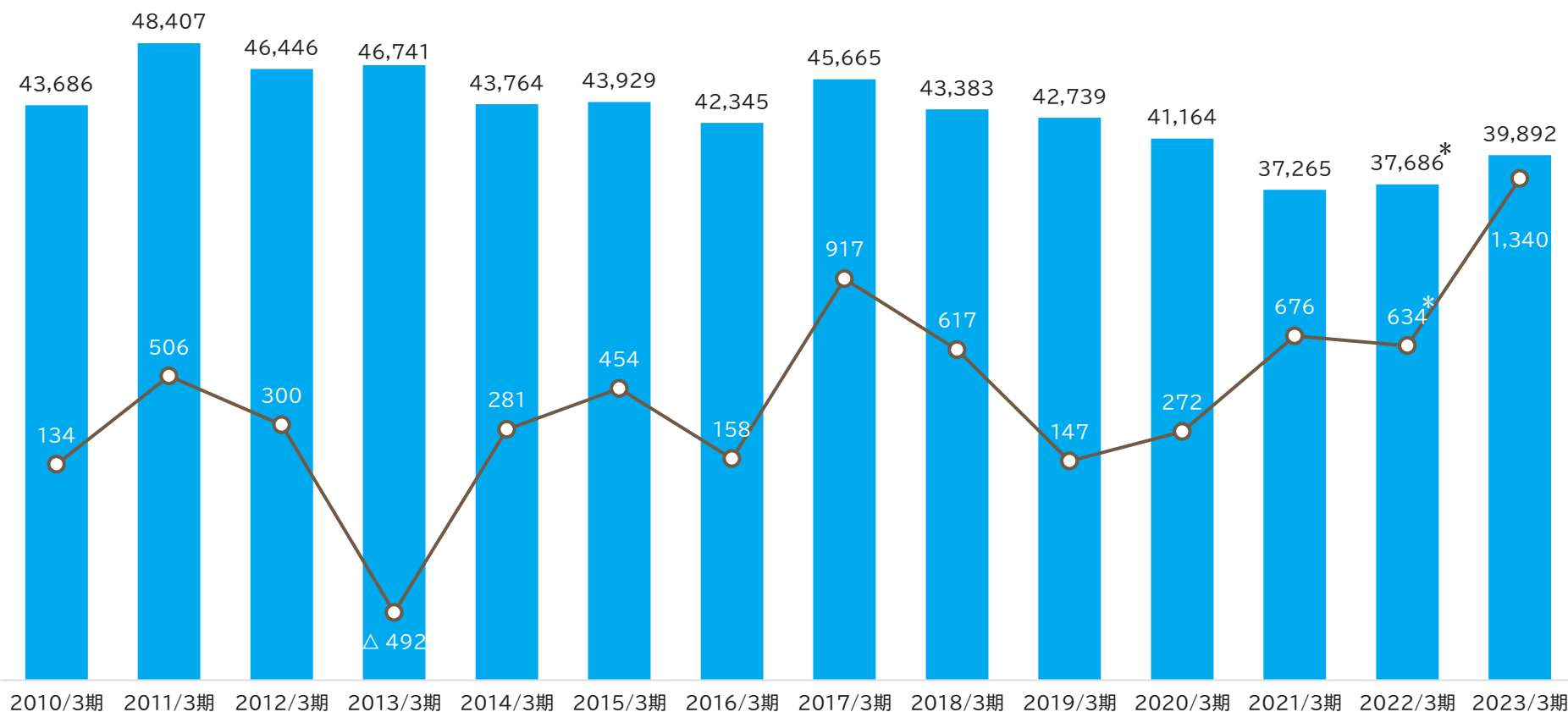
試験機

業績推移

- ◆ 食品関連でコロナ禍からの需要回復や販売価格調整による利益率の回復、物資関連で北米向け等輸出や防災分野などが好調であったことから、2023年3月期の売上高は前期比5.9%増、経常利益は111.3%増と2.1倍に伸長
- ◆ 収益を安定化するため、不採算事業であった婦人服小売事業(2020年3月期)や農業事業他(2022年3月期)から撤退
- ◆ 中期的には非食品事業の構成比引き上げと、利益を重視した成長を目指す

単位:百万円

売上 経常利益



* 2022年3月期より収益認識に関する会計基準等を適用しており、従来の方法に比べ売上高は1,883百万円、経常利益は8百万円減少

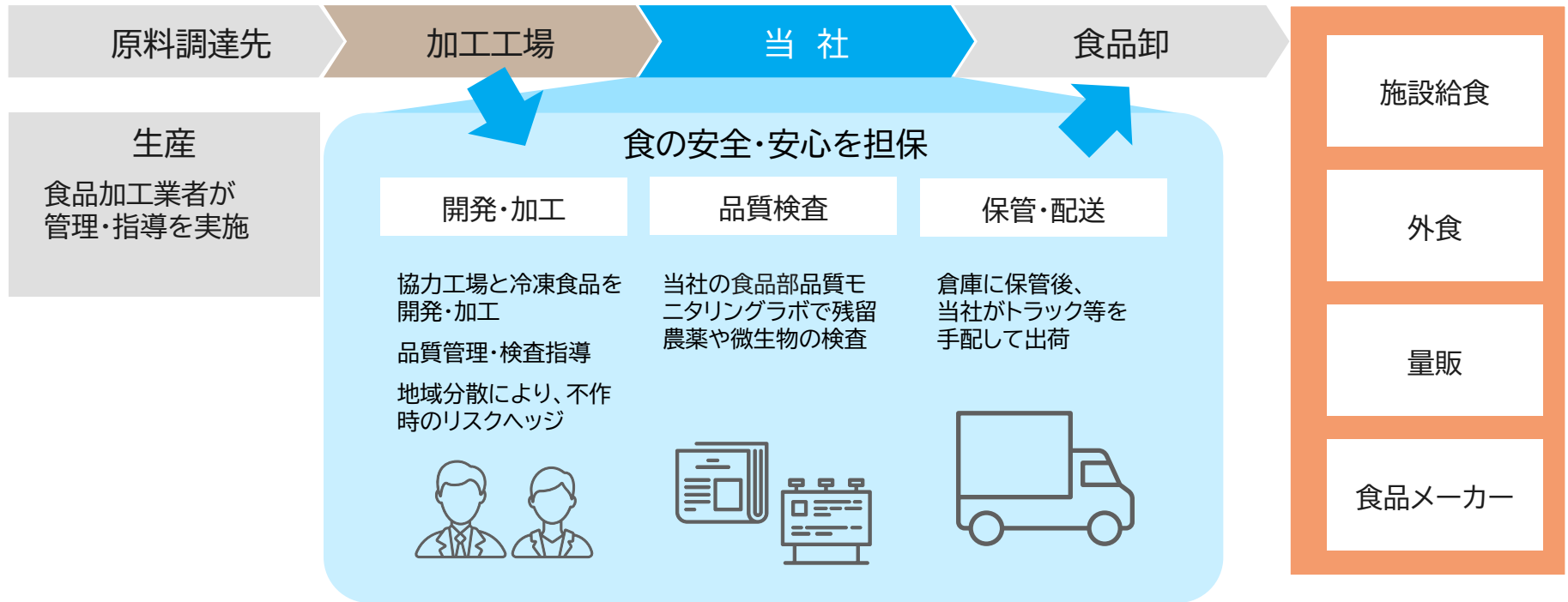
特長・強み

- 3つの商事分野に自社工場を持つ製造メーカーというハイブリッド型をベースに、食品・物資・繊維・電子に関わる4事業を手掛け、夫々の業界の好不調の影響を分散できる独自の事業構造
- 従来型の口銭ビジネスを主体とする卸商社ではなく、企画・提案・モノづくりを主体とする商社
- ニッチ市場に生きるセンサ・コンデンサ・落下試験機等の製造メーカー



強み1. 食のモノづくり商社

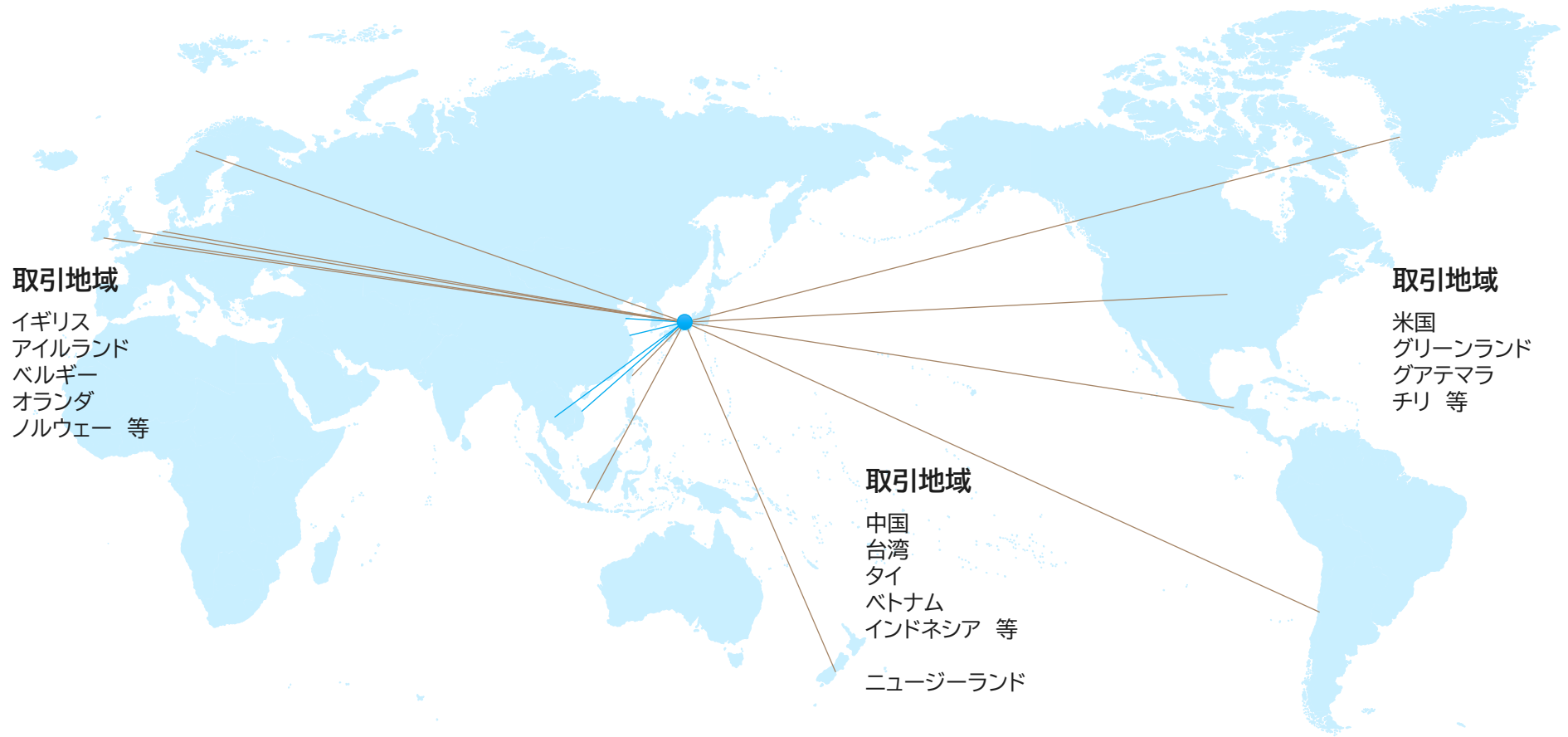
- ◆ 野菜・水産品等の冷凍食品の加工を中国など約130社の加工工場に委託、当社スタッフが生産工程と品質をチェック
- ◆ 輸入冷凍食品は食品部品質モニタリングラボで残留農薬や微生物などの品質を検査し、加工工場に品質指導
- ◆ 高い信頼性が要求される老人ホームなどの施設給食に強み、ドラッグストアや量販店など内食需要向けも強化中



幅広い調達先を持ち、コロナ禍や災害等による仕入れリスクを分散

グローバルに広がる原料調達ネットワーク

- ◆ 商社のグローバルネットワークを活かして、野菜や水産物を中国・東南アジア・米国等で加工して日本へ輸入
- ◆ 海外にも、長期に渡る取引実績で信頼関係を築いた20か国以上の現地パートナーから食材を輸入



高度な品質管理体制

- ◆ 独立した品質管理部門を持ち、残留農薬検査や微生物検査などを実施、安全・安心な食材を提供
- ◆ 現地スタッフや品質管理スタッフが加工工場を訪問し、生産現場の確認と品質管理指導を実施
- ◆ 検査の結果、基準値をオーバーすれば出荷停止

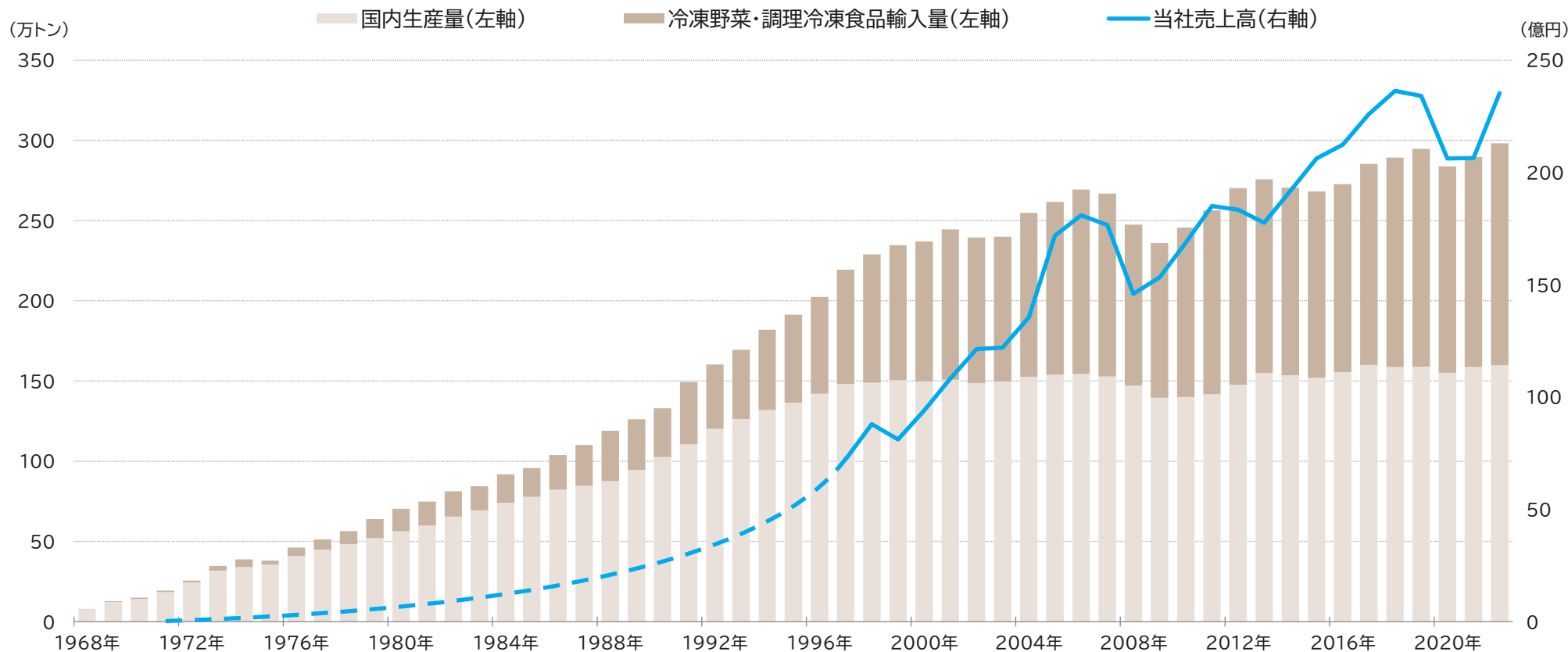


冷凍食品事業の推移



- ◆ 1971年に開始した冷凍食品事業は、コロナ禍影響により2021年3月期に売上高が大きく減少したものの、23年3月期には、過去最高の19年3月期(236億円)に迫る235億円まで回復、過去20年間では年平均3.8%増収と冷凍食品消費量の伸びを上回る成長を達成
- ◆ 2022年の冷凍食品消費量は298万トンで過去20年間で年平均1.2%増、国内生産は横ばいだが輸入品が増加

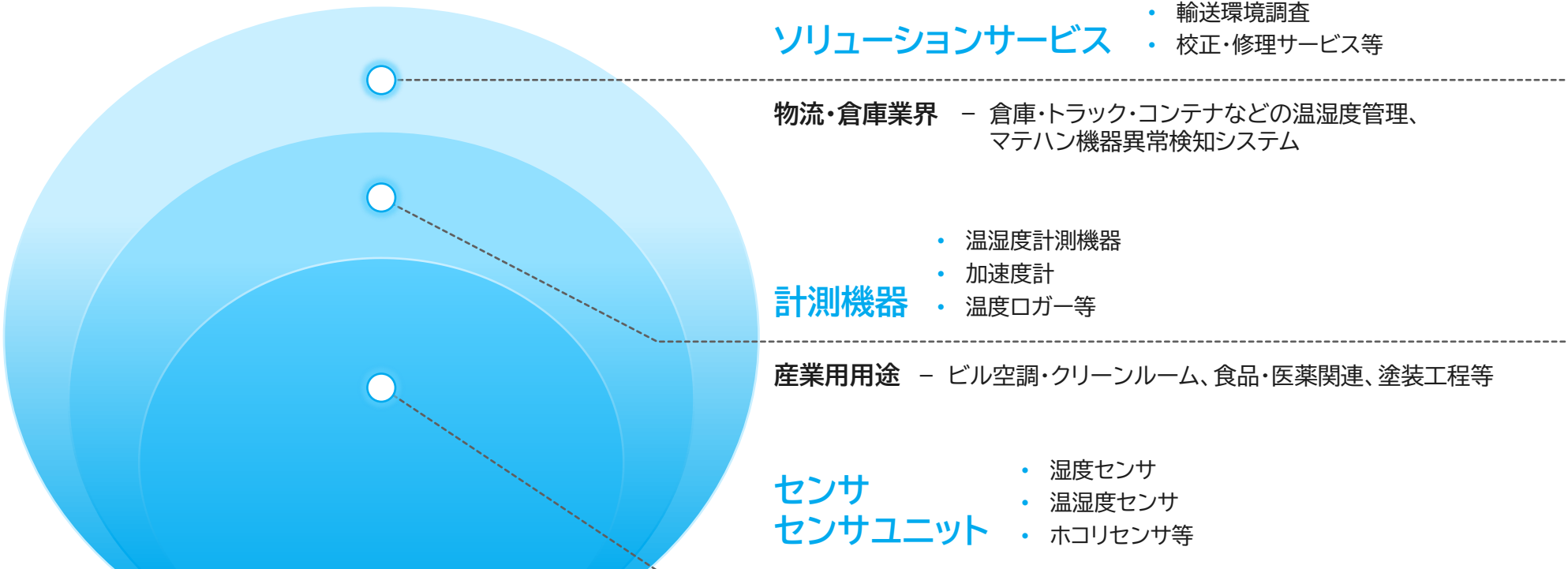
冷凍食品 当社売上高・国内市場



(出所) 国内生産量と調理冷凍食品輸入量は日本冷凍食品協会、冷凍野菜輸入量は「日本貿易統計」(財務省)

強み2. センサ開発からシステム提供まで展開

- ◆ 光学式ホコリセンサや高分子湿度センサを初めて量産化し、いずれもトップクラス
- ◆ センサや計測技術・校正技術をコアに、計測機器の販売からシステム・サービスに展開し高付加価値化を狙う
- ◆ 納入先も民生用空調機器メーカーから自動車やプラント、物流・倉庫業界へ拡大



ソリューションサービス

- 温度・温湿度計測サービス
- 輸送環境調査
- 校正・修理サービス等

物流・倉庫業界 - 倉庫・トラック・コンテナなどの温湿度管理、マテハン機器異常検知システム

計測機器

- 温湿度計測機器
- 加速度計
- 温度ロガー等

産業用用途 - ビル空調・クリーンルーム、食品・医薬関連、塗装工程等

**センサ
センサユニット**

- 湿度センサ
- 温湿度センサ
- ホコリセンサ等

民生用・自動車用途 - エアコン・空気清浄機、加湿・除湿器、カーエアコン等

校正技術

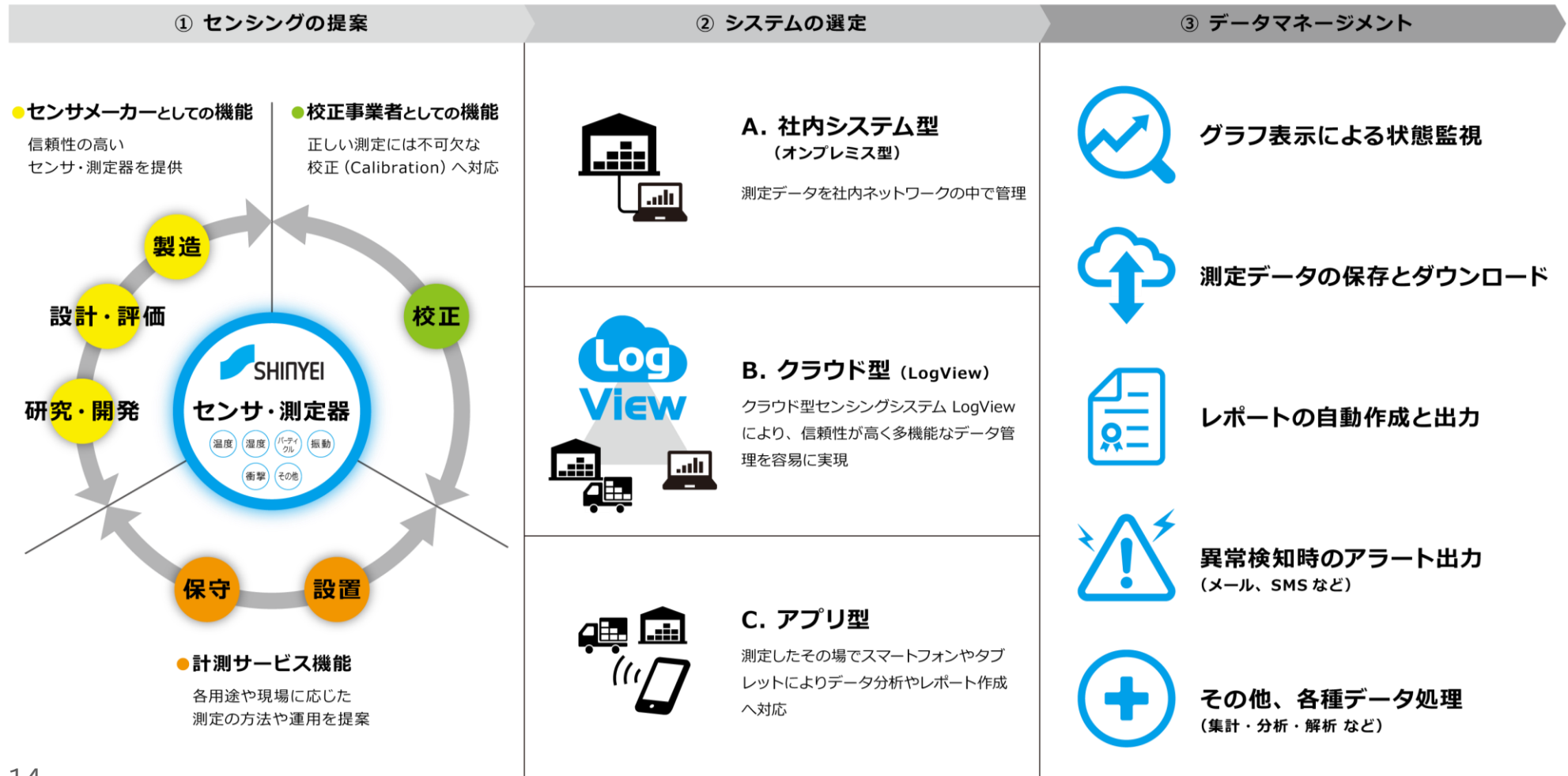
(計測数値の正確さを検証)

湿度に関する国際MRA*1(相互承認)対応JCSS*2認定事業者

*1 国際MRA(Mutual Recognition Agreement) : 相手国向け機器の認証を自国で実施することを可能とする協定
 *2 JCSS : Japan Calibration Service System(計量法)トレーサビリティ制度、計量法に基づく日本の校正事業者登録(認定)制度

IoTシステムによるDX化支援サービス

- ◆ センシングの提案からシステムの選定、データ管理まで、IoTシステム全体をワンストップで提案し提供する「S3 PLATFORM®」(SHINYEI SMART SENSING PLATFORM)を開始
- ◆ ホコリセンサや湿度センサで高い世界シェアを持つセンサメーカーならではの技術力に基づき、計測データの高い信頼性を確保、目的や用途に応じた最適なシステムにより正確に記録・管理し、様々な活用・出力が可能
- ◆ 幅広い市場・顧客にアプローチできる、高付加価値・高収益の新たなビジネススキーム



医薬品流通の最適化モデルを構築

- ◆ 「S3 PLATFORM®」を活用した医療用医薬品保管等のクラウド型温度管理システムを開発し、メディパルグループの高機能物流センターに導入
- ◆ GDPガイドライン*1に準拠した厳格な温度管理に、新型コロナウイルスの物流温度管理で実績がある温度ロガー「G-TAG® TempView®」のPoE*2対応改良型を採用
- ◆ クラウド型データ管理システム「LogView」により、測定データの一元管理に対応

GDPガイドライン

医薬品の保管・輸送での
厳格な温度管理が必要

メディパルホールディングスとの資本業務提携



メディパルホールディングス



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

神栄株式会社



G-TAG® TempView®

将来的には保管から輸送までの
全行程において本システムを展開

医薬品物流における一気通貫でのトレーサビリティの可視化を目指す

*1 医薬品の適正流通(GDP)ガイドライン:高水準の品質保証の維持と医薬品の流通過程での完全性を保証するためのガイドライン

*2 PoE(Power Over Ethernet) :イーサネットケーブル(LANケーブル)で通信データに加えて、電力を供給する技術

強み3. センサ技術を食品関連に展開

◆ 当社の持つセンサや計測技術、校正技術と食品ビジネスでのネットワークを活かし、食品メーカー向け計測機器を販売

食品の「安全性」や「品質」の管理に

食品を無事にお客様まで
お届けするための物流管理に

製造現場やラボの環境
(温度・湿度・清浄度)管理に

水分活性測定計 AwView®

食品の中に、腐敗や食中毒の原因となる微生物が活動可能な水分がどれくらいの割合で存在しているのかを測定し数値化



食品分野のHACCP対応を支援、スマートフォンによる操作で公定法で求められる測定方法へ対応

ハンディにおいモニター OMXシリーズ

においの強弱や傾向を数値化し、食品の品質チェックや異常有無を点検



TempView®

物流(輸送・保管)中の温度管理に適した温度ロガー



ShockView®

衝撃の大きさと発生日時を記録する衝撃ロガー



TrecView®

輸送時の貨物状態を記録するマルチロガー



Bluetooth対応温湿度ロガー HygroView®

高い信頼性と簡単な操作性を両立した新しい温湿度ロガー

スマートフォンで環境(温度・湿度)の記録管理が可能



パーティクルセンシングモニター AES-FPシリーズ

清浄度管理が必要な環境で0.3μm以上の粒子を常時監視

浮遊粒子の「見える化」でHACCP対応を支援



中期経営計画

神栄チャレンジプロジェクト2023

(2022年3月期～2024年3月期)



神栄チャレンジプロジェクト2023



スローガン

上昇気流に乗ろう
“Get on the updraft!”

目標

環境変化にも適切に対応し安定的に
連結経常利益10億円を創出できる
企業・収益体質を構築する

新たな事業ポートフォリオの組成

食品関連セグメントは既存の収益基盤をベースにしたさらなる事業拡大を強力に推進しながら、物資関連・繊維関連・電子関連の各セグメントがそれぞれ早期に収益基盤を確立・安定化することで、すべてのセグメントが収益を拡大しつつバランスの取れた事業ポートフォリオを構築することを目指す

神栄チャレンジプロジェクト2023

- ◆ 中期経営計画の最終年度である2024年3月期の連結経常利益目標1,250百万円については、1年前倒しで2023年3月期に到達

連結 経常利益 (百万円)	2021/3期	中期経営計画期間		
		2022/3期	2023/3期	2024/3期
当初計画	—	750	(1,000)	1,250
実績	676	634	1,340	—

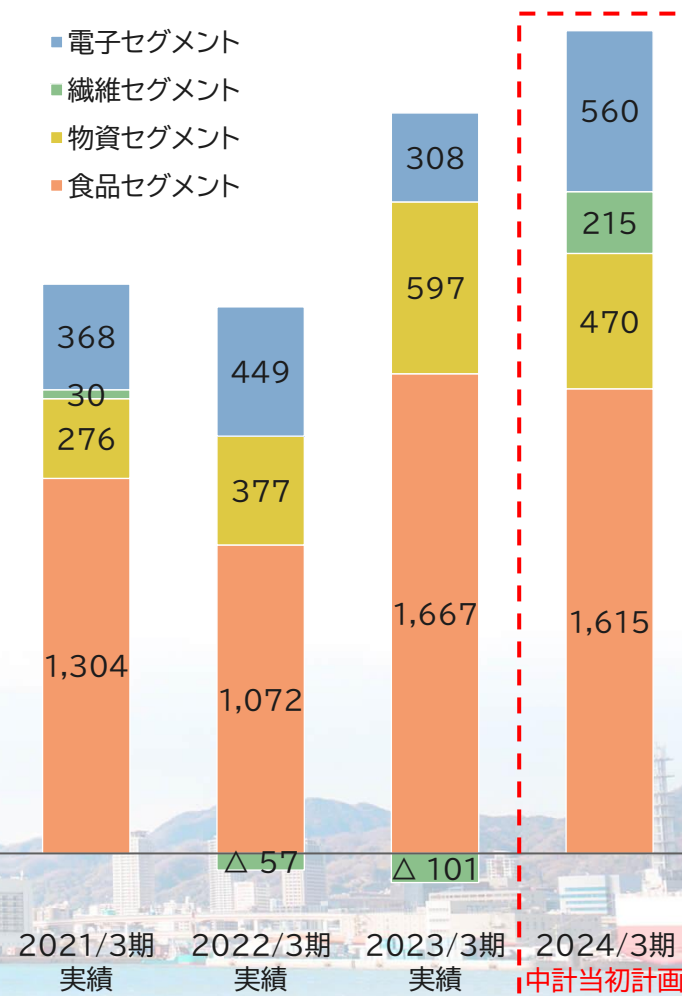
- ◆ 「新たな事業ポートフォリオの組成」について、最終年度である2024年3月期に計画していたポートフォリオに向けた各セグメントの進捗としては…

- 食品** コロナ禍や仕入れコスト高騰で一時期苦戦するも2023年3月期に大幅に利益が伸長し、計画超過
- 物資** 北米等向け輸出事業や防災コンサルティング事業を中心に伸長し計画を大きく上回る収益事業に
- 電子** 試験機や物流用ロガーは堅調も収益の柱であるホコリセンサの需要が回復せず苦戦
- 繊維** 事業基盤の確立を目指したものの赤字から脱却できず

↓
今後の事業拡大が見込まれるテレビショッピング向け事業に注力することとし、その他の事業からの撤退を決定

セグメント利益の推移

単位:百万円

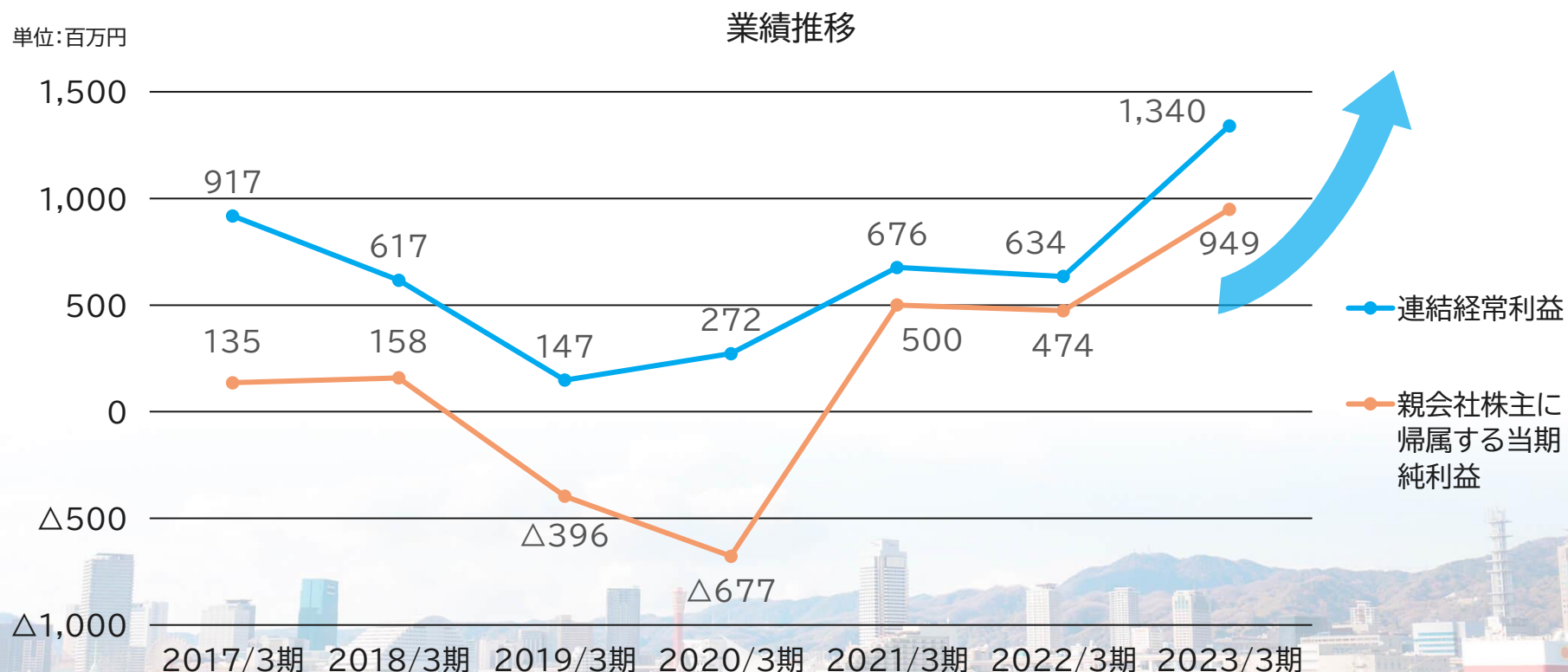


神栄チャレンジプロジェクト2023

中期経営計画の目標に1年前倒しで到達した業績改善のポイント

- ◆ 複数の不採算事業により一時期において業績が悪化していたが、2020年3月期以降、事業構造の改善を進めた
- ◆ 各事業において内外の環境変化にも適切に対処し、特に食品関連・物資関連が大幅増益
- ◆ 長年利益を圧迫してきた多額の訴訟関連損失や不採算事業に係る減損損失など、特別損失要因が低減

以上により、「安定的に連結経常利益10億円を創出できる企業・収益体質」を構築しつつあり、次期中期経営計画に向けた成長の基盤が固まりつつある



2023年度経営計画

- ◆ 2024年3月期は、中期経営計画の最終年度として、「環境変化にも適切に対応し安定的に連結経常利益10億円を創出できる企業・収益体質を構築する」ための基盤固めの総仕上げをする年度
- ◆ 不採算事業からの撤退後、自己資本の充実も図れたことを受け、積極的な投資を含めて新規事業や新たなビジネスモデルの開発を強力に推進
- ◆ 2023年3月期期末配当での復配後、株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要課題と位置付けた中、安定的な配当の継続を目指す

基本方針

- 新たな事業ポートフォリオの組成
- DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
- 働き方改革と生産性改善
- デジタルコミュニケーションの推進
- 人的資本経営の取組みおよびヒューマンリソースの確保・育成
- ガバナンス・コンプライアンス強化の継続
- リスクマネジメントの強化
- IRの強化
- 新規事業・新たなビジネスモデルの開発に向けた研究・検討の強化

- ◆ 当社グループの強みを有する**中核的事業の拡大**を目指す
- ◆ 「モノづくり」をキーワードに**高付加価値製品・商品**を展開する
- ◆ **仕入ソーシング力を増強**し強固なサプライチェーンを構築する
- ◆ 新たな体制を整備して**新規事業や新たなビジネスモデルの開発**を強力に推進する

食品関連

さらなる収益力強化で引き続き
神栄グループを力強くけん引する

- ・ 冷凍食品事業:既存分野の深耕と、多様なニーズに対応した商品開発や調達拡大
- ・ 農産事業:トップシェアのカシューナッツをはじめとする売上拡大
- ・ 海外事業:販売地域拡大や顧客開拓によるボリュームアップ

物資関連

事業の骨太化をさらに進め、
収益力を盤石にする

- ・ 海外コンサルティング事業:継続中の調査案件に加え、新たな案件を獲得
- ・ 北米等向け輸出事業(ベアリング・試験機等):商品ラインナップ拡充とアフターサービス提供による高付加価値化
- ・ 輸出入事業(鋳物・建設機械・生活資材等):サプライチェーン強化による規模拡大
- ・ 建築金物・資材事業:高付加価値商品のラインナップ拡充と新規販路開拓

繊維関連

収益貢献できる体制を早期に
構築する

- ・ テレビショッピング向け事業:ブランド拡大やプロパー消化率(定価での販売割合)の向上による収益拡大
- ・ 不採算事業からの撤退コストの最少化

電子関連

独自の技術力と高い品質力を
活かし、高収益体質に向けた
事業構造の転換を加速する

- ・ センサ機器事業:高付加価値製品やシステム・サービスの販売比重を高める
- ・ 計測・試験機器事業:メディカルグループとの医療物流分野での収益事業化や、高付加価値製品・サービスへの移行
- ・ コンデンサ事業:品質力向上による産業分野深耕と車載用途製品の本格供給開始

サステナビリティの取組み



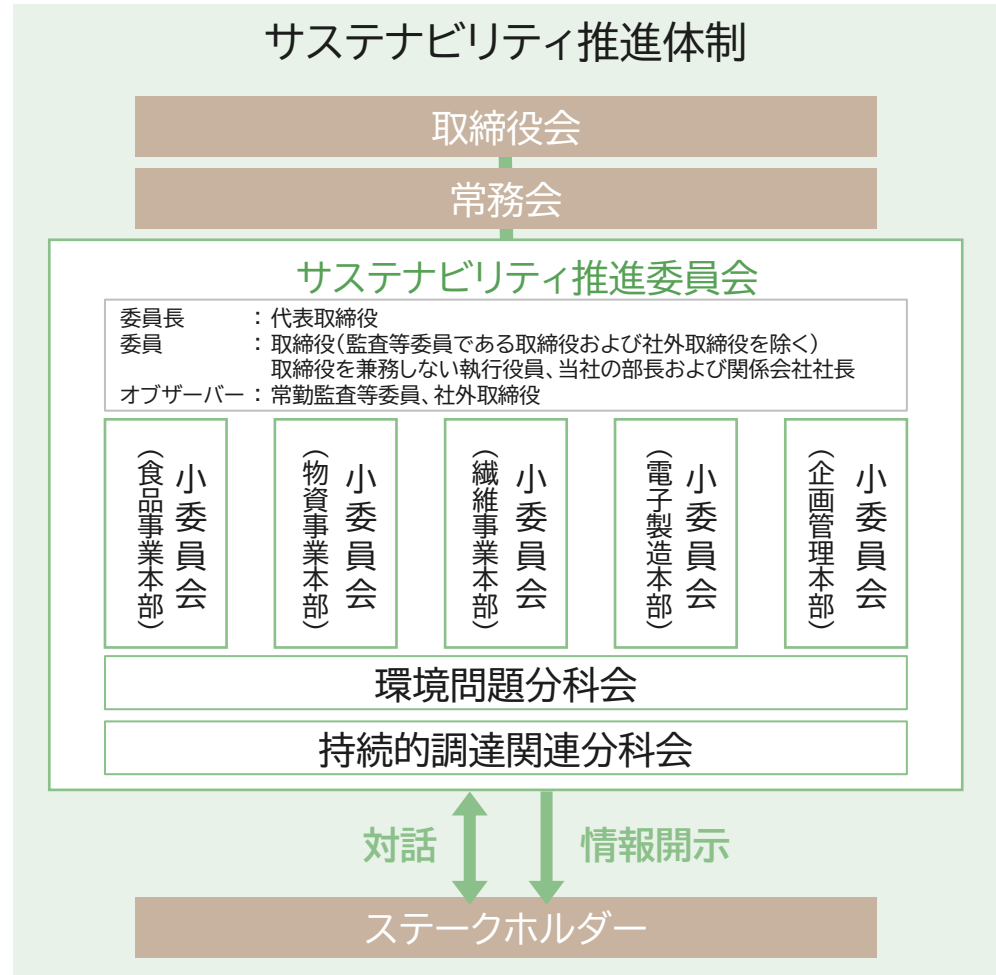
サステナビリティ基本方針

- ◆ 神栄グループの持続的成長と企業価値向上を目指すことを目的として、取締役会にて「神栄グループサステナビリティ基本方針」の策定と「サステナビリティ推進委員会」の設置を決議
- ◆ 「サステナビリティ推進委員会」は、代表取締役を委員長とする全グループ横断的な組織として、サステナビリティの推進に関する取組み全般の統括管理を担う

神栄グループ サステナビリティ基本方針










神栄グループは
「新しい価値の創造につとめ
豊かな社会づくりに貢献します」

という経営理念の下、
神栄グループ倫理憲章を常に遵守し、
グローバルなネットワークを活用して、
人々の様々な豊かさと持続可能な社会の
実現に向けて全力で貢献するとともに、
その結果として自らの持続的成長と
企業価値向上に努めます。



サステナビリティの取組みにおけるマテリアリティ

- ◆ サステナビリティ基本方針を具現化し、企業として社会的責任を果たすとともに持続的成長を目指すために取り組むべきと考える重要度の高い課題「マテリアリティ」を特定
- ◆ マテリアリティの特定にあたっては、ステークホルダーである取引先・大株主・従業員などへのヒアリングを経たうえで、取締役会において決定
- ◆ マテリアリティに基づき、本部ごとに設置した小委員会およびグループを横断する特定の課題に対応することを目的に設置した分科会において、サステナビリティに関連するリスクや機会に対処するための短期的・中期的な取組みを実施
- ◆ 各取組みは、経営理念やパーパスに基づき、事業拡大や事業創出、事業を通じた社会貢献の実現を目指す

社会課題	マテリアリティ	事業領域	目指すところ	対応するSDGs
地球環境保護(E)	環境に配慮した事業の推進	食品	食品ロス低減への貢献	
		電子	物流環境における包装材料の削減や製品破損の防止への貢献	
		全事業	サプライチェーンにおける廃棄物の削減	
持続可能な社会(S)	暮らしを豊かにする製品・商品およびサービスの供給	食品	豊かな食生活に貢献する食品の安定供給	
		物資	快適・安全・持続可能な暮らしづくりに貢献する製品・商品およびサービスの供給	
		繊維	心を豊かにし健康で快適な暮らしに役立つ衣料品等の供給	
	電子	健康で安全・安心な生活を促進する製品の供給		
	持続可能なサプライチェーンの実現	全事業	サステナブル調達への推進	
	共創活動の推進	電子	パートナーシップの推進による新たな付加価値の創出	
労働環境(S)	働きがいのある職場環境の整備	全社	働きがいのある職場づくり	
ガバナンス(G)	経営基盤の強化	全社	ガバナンス体制の強化	
			コンプライアンスの徹底	
			内部通報制度の利用促進	

*社会環境変化などに応じて適宜見直す

具体的な取組み例

パーパス

食品

世界を食でつなぎ、食に新たな豊かさを

E

長期保存や品質保持などの特性を有する冷凍食品の新商品を開発し、さらに普及させることで、食品ロスの低減に貢献

S

安全・安心はもちろん、リーズナブルかつ利便性の高い商品を、世界中の食材を有効活用して安定的に供給し、社会の発展と豊かな食生活に貢献

物資

「人・モノ・技術」をつなぎ、快適・安全・持続可能な暮らしづくりに貢献します

E

サプライヤーや顧客とも協力し、自然環境に配慮し、環境負荷の少ないサステナブル素材を使用した商品を供給、また開発を推進

S

海外において、自然災害対策や施設等の安全対策に関するコンサルティングや資機材の供給により、安全で持続可能な都市基盤の構築に貢献

繊維

未来への暮らしを紡ぐサポートを

E

売れ残り品や不良品の“廃棄ゼロ”を目指した販売先ネットワークの拡大を推進

S

身に着ける人の心を豊かにし、健康で快適な生活につながる衣料品等を開発・販売

電子

競争と共創へ
時代の変化をとらえ、技術力でチャレンジし続け、豊かな暮らしを支えます

E

輸送包装に関わるウェビナーの開催、各種試験機や受託試験サービスの提供により、物流環境における包装材料の削減に貢献

S

メディパルHDとのコラボによる温度ロガーのコロナワクチン温度管理用途での供給を契機に、医薬品物流における品質・有効性・安全性の確保に貢献

全社／全事業

E

これまで推進してきた各拠点の照明のLED化をさらに進めるとともに、空調システムや情報機器等の見直しにより、省エネを促進

S

仕事のやりがい向上のための人事処遇制度の見直しや、ワークライフバランスを尊重した多様な働き方を可能とする制度の周知・啓発を実践

G

監査等委員会設置会社への移行や指名・報酬委員会の設置、社長メッセージや研修によるコンプライアンスの徹底、内部通報制度を周知・啓発

「サステナビリティ」ページ開設

- ◆ サステナビリティの取組みを重要な経営テーマとして推進していくこととしており、神栄グループのウェブサイト「サステナビリティ」ページを開設

<https://www.shinyei.co.jp/sustainability/>

「サステナビリティ」ページ開設

サステナビリティ SUSTAINABILITY

神栄グループにおけるサステナビリティの取組み
FOR SDGs

神栄グループは、「新しい価値の創造につとめ豊かな社会づくりに貢献します」という経営理念の下、食品・物資・繊維・電子という人々の生活に関わる事業分野で、暮らしを豊かにする安全で安心な製品・商品およびサービスを提供するよう日々努めております。

このような中、2015年に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)が示す社会課題解決に向けて取組むことは、新たな事業機会の創出や事業成長にもつながるものであり、環境問題を始めとする各種課題への企業の取組みが注目される中で社会的責任でもあるとの考えに基づき、サステナビリティの取組みを重要な経営テーマとして推進していくこととしており、その基礎となる考え方を示すものとして、以下のとおり「神栄グループサステナビリティ基本方針」を定めております。

経営理念・パーパスとの関係
CORPORATE IDENTITY & PURPOSE

神栄グループでは、「経営理念」を事業セグメント別に具体化するものと位置付けるものとして「パーパス」を策定しており、新しい価値創造によって、どのような社会づくりに貢献するか、を示しております。また、「経営理念」の下、それぞれの目的に沿った規範や方針等を設けております。

パーパス

- 食品**：世界を食でつなぎ、食に新たな豊かさを
- 物資**：「人・モノ・技術」をつなぎ、快適・安全・持続可能な暮らしづくりに貢献します
- 繊維**：未来への暮らしを紡ぐサポートを
- 電子**：競争と共創へ時代の変化をとりえ、技術力でチャレンジし続け、豊かな暮らしを支えます

SHINYEI 経営理念
神栄は、新しい価値の創造につとめ豊かな社会づくりに貢献します。

神栄グループ倫理憲章

- > 神栄グループサステナビリティ基本方針
- > 神栄グループ人権基本方針
- > 神栄グループ環境基本方針
- > 神栄グループサステナブル調達基本方針
- > コーポレートガバナンス・ガイドライン

行動規範

サステナビリティ | 神栄グループ倫理憲章 | 行動規範 | 神栄グループ人権基本方針

神栄グループ環境基本方針 | 神栄グループサステナブル調達基本方針 | マテリアリティ | ④ コーポレートガバナンス・ガイドライン

2024年3月期第2四半期決算



2024年3月期第2四半期決算 業績概要



- ◆ 売上高は前年同期比+6.0%の増収、食品関連が増加
- ◆ 増収に伴う増益に加え、利益率の改善もあり、経常利益は前年同期比+104.5%(約2倍)、当期純利益は+236.1%(3倍超)の大幅増益

	2023/3期2Q		2024/3期2Q		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	19,211	100.0	20,356	100.0	+6.0	—
売上総利益	3,752	19.5	4,394	21.6	+17.1	+2.1
販管費	3,313	17.2	3,437	16.9	+3.7	△0.4
営業利益	439	2.3	957	4.7	+117.8	+2.4
経常利益	510	2.7	1,043	5.1	+104.5	+2.5
当期純利益	241	1.3	810	4.0	+236.1	+2.7
1株当たり純利益	59.40円	—	198.73円	—	+234.6	—

2024年3月期第2四半期 四半期業績概要



◆ 1Q・2Qともに前年同期比増収・大幅増益

単位:百万円	2023/3期				2024/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	9,730	9,481	11,099	9,580	10,247	10,108
売上総利益	1,818	1,933	2,158	2,092	2,216	2,178
販管費	1,655	1,658	1,687	1,627	1,733	1,703
営業利益	163	275	471	464	482	474
経常利益	267	242	439	390	567	475
当期純利益	209	31	356	351	434	376
(参考)						
平均為替レート(米ドル)	129.75円	138.27円	141.38円	132.42円	137.49円	144.63円

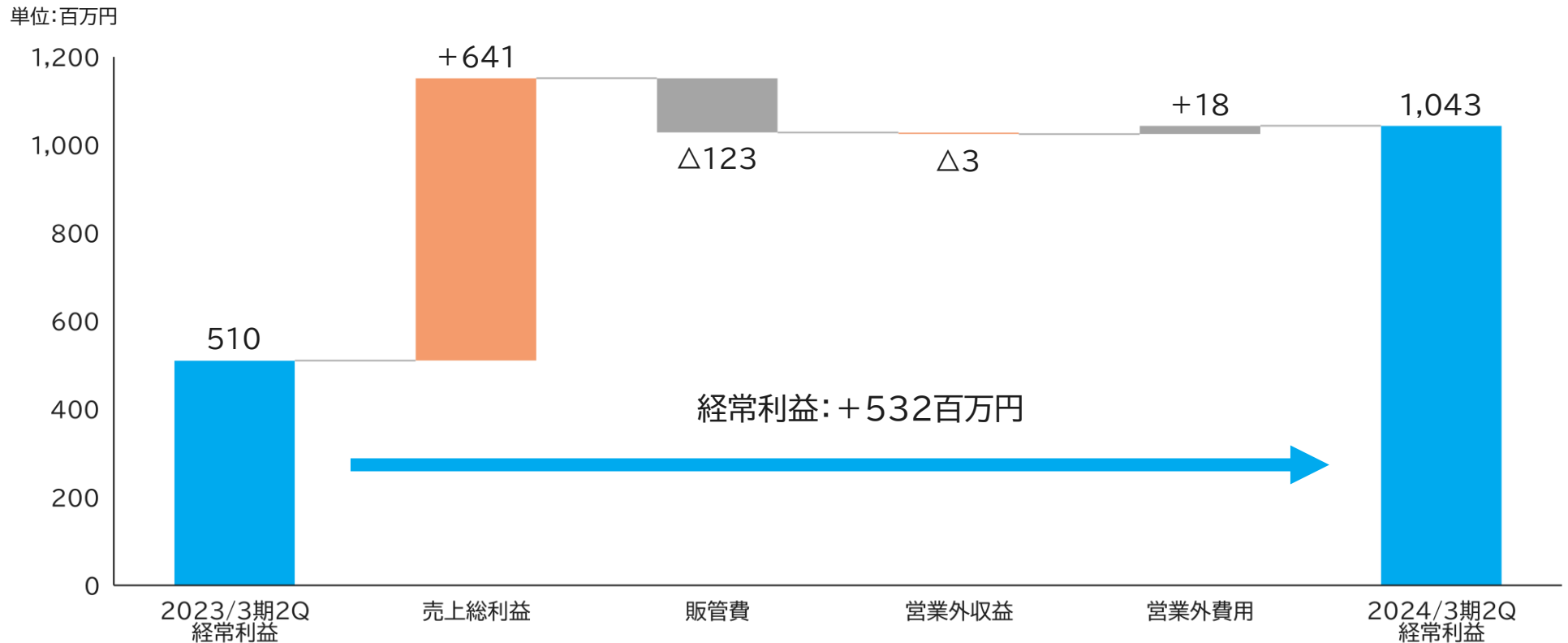
2024年3月期第2四半期 セグメント別売上高・経常利益

- ◆ 食品関連は、冷凍食品の販売拡大の取組みに加え、前期中に進めた販売価格調整の効果もあり、大幅な増収増益
- ◆ 物資関連は、増収も、前期は防災関連で役務提供のための計測機器類の輸出という特殊要因があったこともあり減益
- ◆ 繊維関連は、一部事業撤退により大幅減収も、経費削減により赤字を縮小
- ◆ 電子関連は、ホコリセンサの低調が継続し、計測関連サービスの増加やコンデンサの利益改善が下支えも減益

単位:百万円	2023/3期				2024/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	9,730	9,481	11,099	9,580	10,247	10,108
-食品関連	7,430	6,994	8,066	7,281	8,106	8,029
-物資関連	882	984	1,230	930	965	935
-繊維関連	474	485	744	490	246	155
-電子関連	943	1,017	1,057	878	929	989
経常利益	267	242	439	390	567	475
-食品関連	253	314	494	606	629	537
-物資関連	153	152	170	121	122	135
-繊維関連	△16	△45	△10	△29	△26	△25
-電子関連	56	102	88	61	59	90
-全社費用等	△180	△280	△302	△368	△217	△262

2024年3月期第2四半期 経常利益増減要因

- ◆ 増収と利益率改善に伴い売上総利益が+641百万円
- ◆ 販管費はベースアップ実施や業績好調に伴う賞与引当金の積み増しによる人件費増もあり+123百万円
- ◆ 経常利益は前年同期比+532百万円の大幅増加



2024年3月期第2四半期 貸借対照表

- ◆ 増収に伴い売上債権が増加
- ◆ 増収に伴い運転資金が増加も、利益計上により有利子負債の増加幅を圧縮
- ◆ 利益計上により純資産が大幅に増加し、自己資本比率は前期末比+4.4ptと大幅改善

単位:百万円	2023/3期	2024/3期2Q	前期末比
流動資産	16,341	17,092	+750
(内、現預金)	1,251	1,253	+1
(内、受取手形および売掛金)	5,734	6,474	+740
(内、棚卸資産)	8,952	8,950	△2
固定資産	7,813	8,748	+935
(内、有形固定資産)	4,227	4,142	△85
総資産	24,159	25,844	+1,684
負債	19,507	19,742	+234
(内、有利子負債)	14,482	14,686	+203
純資産	4,651	6,102	+1,450
負債純資産	24,159	25,844	+1,684
1株当たり純資産	1,141.92円	1,491.82円	+349.90円
自己資本比率	19.3%	23.6%	+4.4pt

食品

冷凍食品事業の安定的拡大に向けたサプライチェーン・ストラテジー

当社食品部は、冷凍食品事業の持続可能な安定的拡大に向け、サプライチェーンの各段階の強化を図るべく、特に商品調達面では、当社が強みとしている既存の強固な協力工場網からの安定的な調達に加え、さらなる調達網の多様化への取組みを強力に推進している。

具体的な取組み 必要性が高まる商品や産地の多様化に対応

- ・新規取引国
南米エクアドル産ブロッコリー/ミャンマー産冷凍野菜の販売開始
- ・海外事務所の積極活用
 - ◇タイ：新たな協力工場を開拓し、インゲンの取引を開始
 - ◇ベトナム：①焼きナスを商品化、マンゴー・パイナップルなど果実のアイテム数を拡大
②水産品で新たに1社と委託加工取引を開始
- ・取引強化
 - ◇欧州産：グリーンピースの取扱量を拡大
 - ◇日本産：北海道産かぼちゃの契約数量拡大



ベトナム産パイナップル



欧州産グリーンピース



日本産かぼちゃ

食品部では、ウェブサイトやメールマガジン、神栄公式ブログ「さらに神栄!」などのツールを活用し、新商品やおすすめ品、お役立ち情報を積極的に発信中!



食品部ウェブサイト

神栄 News 2023.09.26

調理現場の人手不足で困りではないでしょうか。
そんな時「助っ魚 魚楽門(すけと うえもん)」シリーズ
骨なし焼き・焼きは揚げがおすすめです。
完全調理済みで、自然解凍でOKです。



その他の冷凍水産品はこちら

神栄食品 Web サイトはこちら

メールマガジン



「食品部 2023年度版 総合商品カタログ」が完成しました



神栄公式ブログ

電子

世界最小・国産初の CRDS微量水分計を製品化

神栄テクノロジー株式会社は、微量水分計測分野で世界トップレベルの研究機関である国立研究開発法人 産業技術総合研究所との共同研究により、微量水分計「Dew Tracer mini CRDS-H₂O」を開発。

半導体の製造：製造工程で使用されるガス中にごく微量な水分が残留していることが、製品の品質、性能、歩留まりへ大きな影響を与える

- ・「キャビティリングダウン分光法」(CRDS)という測定技術
- ・大幅に小型化した検出部と新たな出力解析手法の開発



世界でも類を見ない、小型で、高精度、かつ高感度で高速に測定できる微量水分計を日本で初めて製品化



電子

国立天文台ハワイ観測所の 「すばる望遠鏡」に「鏡面冷却式露点計」が採用

国立天文台がハワイ観測所に設置している口径8.2メートルの大型光学赤外線望遠鏡「すばる望遠鏡」に、神栄テクノロジー株式会社が開発・製造する鏡面冷却式露点計「DewStar S-1シリーズ」が採用。

望遠鏡本体や主鏡鏡面を保護するためドーム内の適切な温度管理が重要



正確な露点温度をリアルタイムで計測しドームの開閉やドーム空調・ミラー空調を制御

神栄の「鏡面冷却式露点計」が適合



JIS(日本工業規格)で規定された湿度の基準器に該当し、湿度計としては最高峰の精度を誇る。また、センサの劣化が少なく長期安定性と再現性に優れ、様々な分野で使用可能。

電子

マテハン機器異常検知システムを メディセオの高機能物流センターへ導入

神栄テクノロジー株式会社は、当社と資本業務提携している株式会社メディパルホールディングスの連結子会社である株式会社メディセオと共同で、物流倉庫内で荷物の運搬や保管を省力化・自動化・効率化するために使用するマテリアルハンドリング(マテハン)機器の異常を検知し、物流機能が長時間停滞することを未然に防止するためのシステムを開発。2023年9月1日に竣工した株式会社メディセオの高機能物流センター「阪神ALC」に導入され、今後、順次、導入先を拡大していく予定。

<特長>

マテハン機器の経時的な状態変化を捉えるだけでなく、これまで検知が困難とされていた、稼働中のマテハン機器への異物落下や電動モーター・ギア等の破損などにより突発的に発生する異常についても、独自のアルゴリズム*を見いだすことにより検知が可能に

*共同開発した両社による共同発明として特許を出願



阪神ALC(株式会社メディパルホールディングス提供)

全社

個人投資家向け会社説明会を開催

当社グループでは、2023年度経営計画における基本方針の1つに「IRの強化」を掲げ、株主・投資家の皆さまへの情報発信を拡充。その一環として、当期においては、個人投資家の方向けのオンライン形式での会社説明会を開催。

- ・2023年9月23日には、日興アイ・アール株式会社主催の説明会を実施し、多くの方がご参加
- ・2023年11月29日は、野村インバスター・リレーションズ株式会社主催の説明会を予定
- ・実施後約6か月間、動画を配信

※「個人投資家向け説明会」ページ

<https://www.shinyei.co.jp/ir/financial/briefing.html>



2024年3月期業績予想



2024年3月期 業績予想

- ◆ 繊維関連での一部事業撤退はあるものの、食品関連が増収となり、売上高は41,000百万円を予想
- ◆ 食品関連の大幅増益により、経常利益は前期比+38.0%の1,850百万円を予想、期初予想からも+48.0%に修正
- ◆ 特別損失に訴訟関連損失を計上するも、当期純利益は前期比+47.4%の1,400百万円を予想、期初予想からも+64.7%に修正
- ◆ 期末配当は、前期実績および期初予想から10円増配とし、1株当たり50円を予定

	2023/3期		2024/3期				比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	期初予想 (百万円)	売上比 (%)	修正予想 (百万円)	売上比 (%)	前期比 (%)	期初予想比 (%)
売上高	39,892	100.0	40,000	100.0	41,000	100.0	+2.8	+2.5
売上総利益	8,003	20.1	8,520	21.3	8,700	21.2	+8.7	+2.1
販管費	6,627	16.6	7,140	17.9	6,850	16.7	+3.4	△4.1
営業利益	1,375	3.4	1,380	3.5	1,850	4.5	+34.5	+34.1
経常利益	1,340	3.4	1,250	3.1	1,850	4.5	+38.0	+48.0
当期純利益	949	2.4	850	2.1	1,400	3.4	+47.4	+64.7
1株当たり純利益	233.50円	—	208.66円	—	343.07円	—	+46.9	+64.4
1株当たり配当金	40.00円	—	40.00円	—	50.00円	—	+25.0	+25.0

2024年3月期 セグメント別売上高・経常利益予想

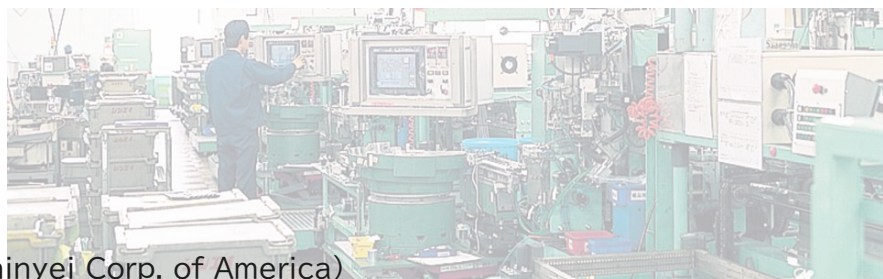
- ◆ 食品関連は、冷凍食品事業を中心に引き続き好調で増収・大幅増益を予想
- ◆ 物資関連は、売上高は前期並みも、前期に特殊要因があったことの反動などにより減益を予想
- ◆ 繊維関連は、一部事業からの撤退コストで赤字を見込むも、残存事業拡大に向けた体制を早期に構築し収益改善を図る
- ◆ 電子関連は、ホコリセンサの需要回復がなく、新規製品・サービスの投入での挽回を図るも、若干の減収減益を予想

	2023/3期		2024/3期				比較	
	実績 (百万円)	構成比 (%)	期初予想 (百万円)	構成比 (%)	修正予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)	期初予想比 (%)
売上高	39,892	100.0	40,000	100.0	41,000	100.0	+2.8	+2.5
-食品関連	29,772	74.6	30,940	77.4	32,450	79.1	+9.0	+4.9
-物資関連	4,028	10.1	4,370	10.9	4,020	9.8	△0.2	△8.0
-繊維関連	2,194	5.5	670	1.7	700	1.7	△68.1	+4.5
-電子関連	3,897	9.8	4,020	10.1	3,830	9.3	△1.7	△4.7
経常利益	1,340	-	1,250	-	1,850	-	+38.0	+48.0
-食品関連	1,667	67.4	1,840	70.8	2,200	73.3	+31.9	+19.6
-物資関連	597	24.2	480	18.5	550	18.3	△8.0	+14.6
-繊維関連	△101	△4.1	△70	△2.7	△50	△1.7	-	-
-電子関連	308	12.5	350	13.5	300	10.0	△2.7	△14.3
-全社費用等	△1,131	-	△1,350	-	△1,150	-	-	-

Appendix

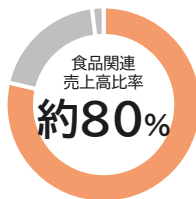


- 1887年 生糸問屋として神戸に誕生
- 1915年 貿易部を新設し繊維・雑貨などの輸出を開始
- 1928年 製糸業に進出
- 1929年 対米生糸輸出の拠点としてニューヨーク支店を設置
- 1943年 電機部品分野に進出しコンデンサの製造を開始
- 1949年 東京・大阪の両証券取引所に株式を上場
- 1952年 中国貿易の開始
- 1959年 対米国取引一層拡充のためニューヨークに現地法人を設立
- 1961年 中国より「友好商社」に指定
- 1965年 世界で初めてポリプロピレンフィルムコンデンサの開発に成功
- 1970年 業界初の金属酸化物型湿度センサを開発
- 1971年 日本で初めて中国から冷凍野菜の輸入を開始
- 1978年 湿度計測の性能を飛躍的に向上させた高分子湿度センサを開発
- 1979年 米国における新会社としてニューヨークに現地法人を設立(現・Shinyei Corp. of America)
- 1983年 製糸業から撤退
- 1992年 東南アジアにおけるコンデンサの製造拠点としてマレーシアに現地法人Shinyei Kaisha Electronics (M) SDN. BHD.を設立
- 1996年 全社的な営業拠点として香港支店を開設
- 2000年 建築金物販売事業を営む会社をグループ化(現・神栄ホームクリエイティブ株式会社)
- 2001年 試験機および測定機器の製造・販売事業を営む会社をグループ化(現・神栄テクノロジー株式会社)
- 2007年 電子事業を再編して神栄テクノロジー株式会社に集約
- 2009年 グループの研究開発拠点として「神栄グループR&Dセンター」を開設
- 2011年 コンデンサ事業強化のため神栄キャパシタ株式会社を設立
アゼルバイジャン共和国における防災コンサルティング事業を開始
- 2012年 中国での冷凍食品販売のため現地法人神栄商事(青島)貿易有限公司を設立
- 2013年 東南アジアにおける冷凍食品等の仕入拠点としてホーチミン事務所を開設
- 2015年 茨城県つくば市に試験機および測定機器の研究開発・製造拠点を開設
- 2021年 株式会社メディパルホールディングスと資本業務提携
- 2022年 日本における冷凍食品輸入販売事業拡大のための仕入拠点としてバンコク事務所を開設



◆ 冷凍食品から農産品まで、加工機能を駆使し、世界の産地から食材を提供

冷凍食品事業



業務用を中心とした冷凍食品の販売
(冷凍野菜・冷凍調理品・冷凍水産加工品等)



生産の90%以上は海外の協力工場生産し、日本に輸入

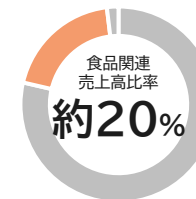
当社基準の品質管理体制により、現地で食材を調達・加工・生産
本社に独立した品質管理部門を設置し、安全・安心を担保

安全に対する高い信頼が要求される医療・老健施設向けに強み

主な販売先

- ホテルや飲食店などの外食
- 産業給食や医療・老健施設
- 業務用スーパー・ドラッグストアなど量販店
- 弁当・総菜、テイクアウト・家庭用途

農産物(落花生・ナッツ類)



各国から仕入れた落花生・ナッツ類の販売



落花生の取扱量では国内トップクラス
カシューナッツにおいても国内トップクラス

主な取引国

- インド、ベトナム、米国、中国、ブラジル、オーストラリア、南アフリカ、ミャンマー、フィリピン、タイなど

主な販売先

- 問屋やメーカーなど

◆ 資材開発から製品供給・施工まで、住まいと産業分野で幅広く製品を提供

防災関連



地滑り等防災に関する日本の最先端技術を日本のパートナーと共有し、防災に関する科学的分析と対策工の提案などのコンサルティングから防災工事に必要な機械や資材の提供まで、防災技術全般の役務を提供

鋳物



排水管の各種接手やバルブ部品など品質の高い鋳物製品を東南アジアで製造し、輸入販売することにより、日本国内の顧客のチャイナプラスワン戦略に貢献

ベアリング



ユーザーや特殊なアプリケーションの技術課題を解決する高付加価値・高機能特殊軸受の北米向けを中心とした輸出版売

試験機



自動車関連や携帯端末など多様に広がる試験ニーズに応え、顧客のR&Dに貢献する、優れた当社グループ製および他社の試験機の北米輸出

建築金物・資材



ファブレスメーカーとして、集合住宅用を中心とした暮らしに不可欠な建築金物(マンションの郵便受け、宅配ボックス、バルコニー物干金物など)の販売、および輸入ガラスのパイオニアとしての鏡・高透過ガラスなどの輸入販売



建設機械

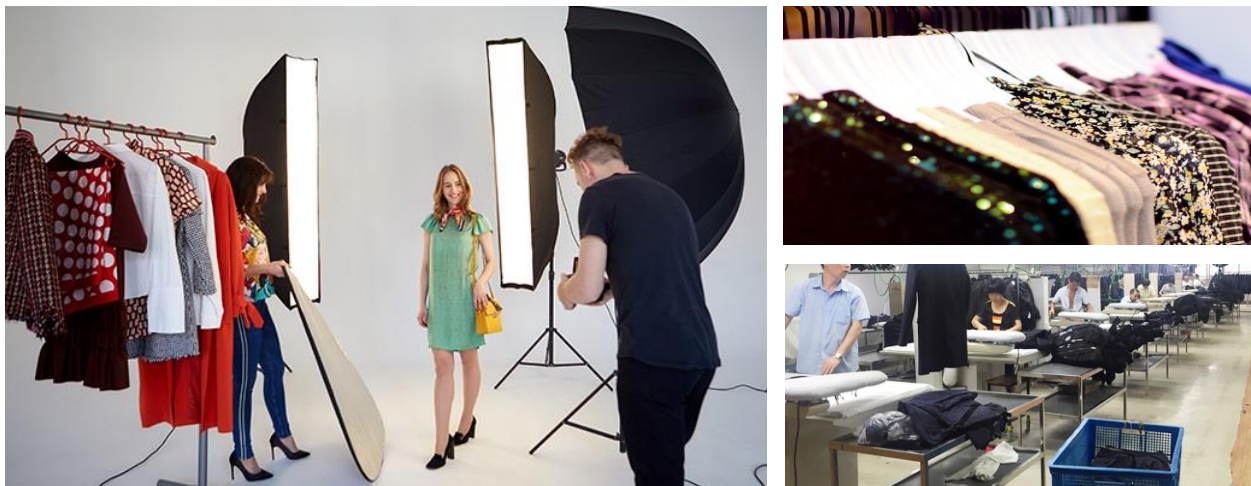
港湾工事、ダム建設、トンネル掘削、鉱山開発など大型土木工事施工用に、日本のトップメーカーの建設機械を輸出

生活資材

歯ブラシ用から工業用ブラシまで、幅広い用途に応じたブラシ等の販売

- ◆ ニーズを捉え、最新のトレンドを取り入れた魅力ある商品を提供

アパレル



テレビショッピング向けの婦人服をメインに、企画から生産、輸入販売までの一貫したプロセスで、競争力のあるアパレル事業を展開

長年にわたり信頼関係を築き上げた中国の協力工場と連携し、生地を選定から縫製までのプロセスで品質にこだわったモノづくりを実現

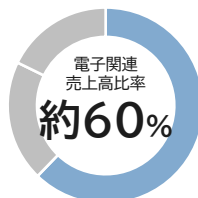
複数のブランドを取扱い、それぞれのブランドが持つ個性を大切にしながらも、トレンドを融合させたスタイリッシュなデザインで、お客様の多様化するライフスタイルに寄り添った魅力ある商品を提供

電子関連(1)

◆ エレクトロニクス分野の高度化を支え、快適で安全な社会づくりに貢献

センサ機器

白物家電・自動車向けからビル空調や
ハウス栽培等、幅広い用途に向けた
センサの開発・製造・校正



空気質を測るセンサ専門メーカー

光学式ホコリセンサユニット

大手家電メーカーの製品に多数採用

自動車、エアコン、空気清浄機、
クリーンルームなど



車載用ホコリセンサユニット

温湿度センサ/ユニット

日本で初めて電子式センサを開発
センサ素子からユニットまで販売

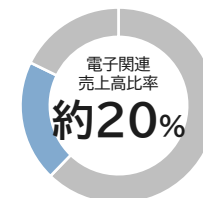
自動車、エアコン、加湿器、
除湿器、ビル空調など



温湿度センサユニット

コンデンサ

世界初の高耐熱
ポリプロピレンフィルムコンデンサを開発



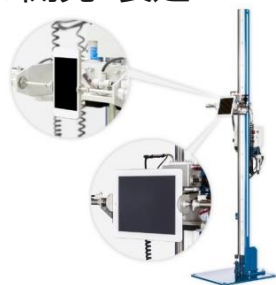
フィルムコンデンサの製造、販売
電子部品の研究開発

産業機器分野、車載電子部品向けに展開

長野・マレーシアの2拠点体制で研究開発と適地生産・適地販売を推進

試験機

落下・衝撃試験機の開発・製造



輸送・包装に関わる落下衝撃試験機

日本で初めて開発し製品化、国内トップシェア

物流会社、各種メーカー(電子、食品、物資、繊維等)、公的機関など

スマートフォン用落下試験機

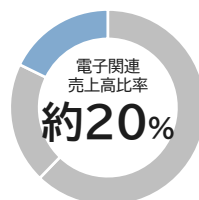
世界で初めて開発、世界トップシェア

スマートフォン、タブレット、ノートPC、スマートウォッチ向けなど

電子部品・小型機器の耐衝撃評価装置

世界初の方式を開発、世界最高性能を実現

ワイヤレスイヤホン、スマートフォン向けに搭載される各種部品向けなど



計測機器

各種産業用、物流向けを中心とした
様々な計測機器の開発・製造・校正

日本で初めて製品化

高精度温湿度計測器

厳しい条件下での高精度温湿度計測技術

国内外研究機関、気象関連機関、
ワクチン保管・輸送用途など
物流分野(特に医薬品)市場向けを強化



鏡面冷却式露点計

振動・衝撃計測器

国内の重電物流分野でシェア独占
振動・衝撃を数値化する技術

物流会社、各種メーカー
(電子、食品、物資、繊維等) など



輸送環境記録計

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。